第３学年２組　図画工作科学習指導案

授業者　　荒　川　祥　輝

１　題材名　「わたしのキレイを閉じ込めて」（Ｂ鑑賞(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ）

２　題材について

(1)　児童の実態について

本学級の児童は、図画工作科の学習に意欲的に楽しく取り組んでいる。本学級の児童は第２学年時に、木工用ボンドに身辺材料を入れ、お好み焼きのような形に延ばし固め、それを鑑賞する題材を行っている。その際には「色が透き通ってキレイ」「ビーズがたくさんあって面白い」と鑑賞の時間を楽しんでいた。また色水の造形遊びでは「太陽の光が当たってキレイ」「並べてみたらよりキレイだよ」と表現を繰り返しながら鑑賞も楽しんでいた。今年度に行った「色の水たまりから」では、にじみの技法を味わいつつ、色の混ざり合いや乾いた後のにじんだ模様を見て「この色、キレイだね」とつぶやいていた。前年度以前から「キレイ」と言葉にしてきたものを、本題材では児童一人一人が感じた「キレイ」を学級内で共有し児童が造形的な視点を基に感性を働かせ、感性を磨くことができると考えた。児童が造形的な視点をもち、感性を働かせながら鑑賞の活動をしていく姿を目指す。

(2)　本題材を指導するに当たって

本題材は身辺材料を透明な容器に詰めてゼラチンで固めたものを、色々な角度で見て鑑賞する題材である。本題材での「キレイ」とは、児童が造形的な見方・考え方から感性を働かせて見た児童一人一人が感じる「キレイ」とする。つまり、本題材を通して「キレイ」という感覚は一人一人違っていることに気付けるようにしたい。本題材では透明な容器の中に入れた材料を、ゼラチンで固めることでその材料たちの織りなす「キレイ」を３６０度見回すことができる。ゼラチンに閉じ込める材料は形や色が「キレイ」なものだけに留まらず、身近な葉っぱや石などの材料もゼラチンに閉じ込めることで身近にあるモノを「キレイ」という造形的な視点で再認識することができると考えた。

主材料であるゼラチンは安価で手に入り着色（本題材では着色しない）も可能である。また粉ゼラチンの分量を多くすることで、弾力性が高まり浮いているようにものを閉じ込めることができる。透明な容器は大きめのカップ（約３７５ml）とし、児童が集めた身辺材料を十分に閉じ込めることができるようにする。身辺材料には自然にある葉や石、枝も含めることとする。ただし、ゼラチンは熱に弱いため外に置いたままにしておくとゼラチンが溶けてしまう。そのため光にかざして見てみたい児童には、時間を決め見るように伝える。第一次では教師の表現を提示しつつ、学級全体で共有した「キレイ」を確認する。その後、各々透明な容器に自分の「キレイ」を入れ、ゼラチンで閉じ込めていく。閉じ込めたらその容器を色々な角度で見て鑑賞する時間を設けることとする。色々な角度で見るためには友人との活動も欠かせない。自然と「こっちから見てみてよ」「この角度、光が入ってキレイだよ」といった対話が生まれることを期待している。第一次で閉じ込めた材料の入れ方を変えたり向きを整えたりする中で、試行錯誤しながら「よりキレイに見えるようにするためにはどうしたらいいのか」と感性を磨く姿を期待している。第二次では、さらに容器を変えたり、友人の表現を見合ったりして自分にとってキレイなものを閉じ込めるよさや面白さをさら感じ、見方や感じ方を広げられるような時間も設けることとする。

形や色などの感じが分かることの指導に当たっては、児童がよさや面白さを感じた形や色の材料をゼラチンに閉じ込め、それを鑑賞する活動を設定する。本題材では、閉じ込めたものを見ながら児童が「キラキラしていてリラックスする感じがいい」「つやつやしていて見ていて楽しい感

じがする」といったように形や色の感じに触れられるようにする。そのために、児童が形や色に着目するような声掛けを行っていく。

形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつことの指導に当たっては、児童がよさや面白さを感じた形や色について、どのようなイメージをもったか質問をする。具体的には「普段見ている石をゼラチンに閉じ込めたら形がよく見えてなんだか雲のような形に見えるな」と閉じ込めた中に広がる形や色に着目できるように声掛けを行う。児童との対話の中で、さらに児童がよさや面白さを感じた身近な形や色を見付けられるようにする。

身近な作品などの造形的なよさや面白さなどについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げることについての指導に当たっては、児童がキレイを閉じ込めた透明な容器を様々な角度で見ることを全体で共有する。基本的には、児童がキレイを閉じ込めた容器をじっくりと見ることを促すが、つくった透明な容器を色々な角度で写真に撮り、グループウェアに児童が感じ取ったことや考えたことなどを形や色などの視点でまとめて、投稿することもできるようにする。また、友人が投稿したその様子と感想も見ることで新たな形や色の視点に気が付いたり、共感したりする。題材のまとめとして、児童の表現を共有して、形や色などの視点から振り返る活動を行う。その活動を通して造形的なよさや面白さなどについて感じ取ったり考えたりするようにする。

3　題材の目標・評価規準

(1)　題材の目標（※〔共通事項〕ア、イはア＿＿＿、イ……で示す。）

○自分が思ったキレイなものを見る感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かる。

（知識及び技能）

○自分が思ったキレイなものの形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつ。

○自分が思ったキレイなものを鑑賞する活動を通して、身近な作品などの造形的なよさや面白さなどについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。

（思考力、判断力、表現力等）

○進んで自分が思ったキレイなものを鑑賞する活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

（学びに向かう力、人間性等）

(2)　題材の評価規準

題材の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知自分が思ったキレイなものを見る感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かっている。	鑑自分が思ったキレイなものの形や色などの感じを基に自分のイメージをもちながら、自分が思ったキレイなものを鑑賞する活動を通して、身近な作品などの造形的なよさや面白さなどについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	態進んで自分が思ったキレイなものを鑑賞する活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養っている。

4　題材の指導計画・評価計画（２時間扱い）　　本時２／２時　◎…全児童記録

時間	学習活動	評価の観点、評価方法					備考
		知　技		思		態	
		知識	技能	発想や構想	鑑賞		
1・②	・活動の見通しをもつ。 ・自分がキレイだと思うものを閉じ込める。 ・閉じ込めたものを見て、見方や感じ方を広げる。 ・実際に置いてあるものを見に行ったり、投稿された写真を見たりして活動全体を振り返る。	○観察対話記録			◎観察対話記録	◎観察対話表現	活動全体を通して、「知識及び技能」、「思考・判断・表現（鑑賞）」と関連付けて、「主体的に活動に取り組む態度」の視点で児童の学習状況を把握し、最後に記録に残す。

5　本時の学習指導（２／２時）

(1)　目　標

○自分が思ったキレイなものを鑑賞する活動を通して、身近な作品などの造形的なよさや面白さなどについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。

（思考力、判断力、表現力等）

(2) 準　備

○教師　ゼラチン、カップ、空き容器、ＬＥＤライト、大型モニター、ＩＣＴ端末
　　ビー玉やビーズ等の身辺材料、葉っぱ、石、枝、竹串、割りばし、ピンセット

○児童　ＩＣＴ端末、空き容器、身辺材料（自分がキレイだと感じるもの）

(3)〔共通事項〕（小学校学習指導要領解説図画工作編より抜粋（下線部は、〔共通事項〕との関連））

ア　自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること。（展開：＿＿部）

イ　形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。　（展開：＿＿部）

(4)　展　開

学習活動、予想される活動 ∞具体的な児童の姿「」	指導の工夫 （〔共〕：〔共通事項〕に係る内容）	評価と手立て評価規準 【評価方法等】	時間
提案　わたしの「キレイ」を見て、さらに「キレイ」を閉じ込めてみよう			
1　本時の活動を知る。	○前時で学級で共有した様々な「キレイ」を確認し、本時の活動への見通しをもてるようにする。		5
2　前時で閉じ込めたキレイを鑑賞する。	○自分や友人の「キレイ」見て、自分や友人が「キレイ」だと感じるものの共通点や相違点に気付く児童を学級で共有していく。	鑑自分が思ったキレイなものを鑑賞する活動を通して、身近な作品などの造形的なよさや面白さなどについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。【観察・対話・記録】	8
∞　自分や友人が閉じ込めたキレイを様々な角度で見てみる。			
3　「キレイ」だと感じたものをさらに閉じ込める。	○前時に閉じ込めたものに追加したり、新たに閉じ込めてみたりすることで、より形や色のよさや面白さに気付けるようにする。		20
∞　身辺材料をゼラチンで閉じこめる。			
「前回は石や葉っぱを入れて見たけど、今度はビー玉も入れてみたらどうかな」	○光を入れて見ることで「キレイ」に見えることに気付いた児童がいた		

「石を入れて見てもキレイに見えるよ」 「枝や葉っぱは光に当てるのもキレイだからたくさん入れよう」 ↑行き戻り↓ ∞　閉じ込めたものを色々な角度から見る。 「光が入ってさらにキレイに見えたな。材料を変えてみたら何か変わるかな」 「ピロティなら空も見えるからよりキレイに見えるかもしれないな」 「友人と一緒に撮影していたら、面白い角度で撮影できたよ」 「石や葉っぱを色々な角度で見ても面白いね。いつも見ているものとは違って見えるね」 3　本時の活動を振り返る。 ∞　自他の表現を見て、本時の活動を振り返る。 「閉じ込めたものを変えて、さらにキレイで温かい感じが出せたらいいな」	場合そのことを周知し、光が無いときと見え方が違うことに気付けるようにする。 ○自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かるようにする。〔共〕そのために閉じ込めたものの形や色などに着目するように児童と対話する。 ○形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつようにする。〔共〕そのために、児童がよさを感じた身近な模様や形について、どのようなイメージをもったか質問をする。 ○写真を撮る際には、一人で難しい場合も考えられるため、友人に協力してもらうように伝える。 ○色々な角度から容器を見るようにし、どの角度から見たら自分の「キレイ」が表現できるのか考えるようにする。 ○光が入り込む場所を探す以外にも、ＬＥＤライトや懐中電灯を用いて、光を当てることも許容していく。 ○自他の表現を見て振り返る際には、自分が感じたよさや面白さ（本時ではキレイ）の視点で振り返るようにする。		12

6　備　考　　在籍児童数　　３５名

「わたしのキレイを閉じ込めて（２時間扱い）鑑賞（第３学年）

形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつことの指導に当たっては、児童がよさや面白さを感じた形や色について、どのようなイメージをもったか質問をする。具体的には「普段見ている石をゼリーに閉じ込めたら形がよく見えてなんだか雲のような形に見えるな」と閉じ込めた中に広がる形や色に着目できるように声掛けを行う。児童との対話の中で、さらに児童がよさや面白さを感じた身近な形や色を見付けられるようにする。

〔共通事項〕（１）ア

●自分が思ったキレイなものを見る感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かる。

〔共通事項〕（１）イ

●自分が思ったキレイなものの形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつ。

形や色などの感じが分かることの指導に当たっては、児童がよさや面白さを感じた形や色の材料をゼラチンに閉じ込め、それを鑑賞する。本題材では、閉じ込めたものを見ながら児童が「キラキラしていてリラックスする感じがいい」「つやつやしていて見ていて楽しい感じがする」といったように形や色の感じに触れられるようにする。そのために、児童が形や色に着目するような声掛けを行っていく。

身近な作品などの造形的なよさや面白さなどについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げることについての指導に当たっては、児童がキレイを閉じ込めた透明な容器を様々な角度で見ることを全体で共有する。基本的には、児童がキレイを閉じ込めた容器をじっくりと見ることを促すが、つくった透明な容器を色々な角度で写真に撮り、グループウェアに児童が感じ取ったことや考えたことなどを形や色などの視点でまとめて、投稿することもできるようにする。また、友人が投稿したその様子と感想も見ることで新たな形や色の視点に気が付いたり、共感したりする。題材のまとめとして、児童の表現を共有して、形や色などの視点から振り返る活動を行う。その活動を通して造形的なよさや面白さなどについて感じ取ったり考えたりするようにする。

B鑑賞（１）ア　鑑賞する

●進んで鑑賞する活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

第４学年１組　図画工作科学習指導案

授業者　　池　上　直　毅

１　題材名「わたしだけのもよう研究所」（A表現(1)イ、(2)イ、B鑑賞(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ）

２　題材について

(1)　児童の実態について

本学級の児童は、図画工作の学習に対し意欲が高く、どのような活動に対しても積極的に取り組んでおり、自分の思いに合わせて表現することに楽しさを感じている。４月に行った「公園で一番すきな所は…」という題材では、公園の自然や噴水などの人工物などをよく見て、児童一人一人が気に入った風景をどのように表現しようか考えながら活動している様子が見られた。また、「絵の具のぼうけん」でも絵の具の新たな表現方法に触れ、試したり工夫したりしながら、楽しんで活動している児童が多かった。このような姿から、自分の思いを表現することに関心をもち、表現の楽しさを味わっている児童が多いことがうかがえる。一方でどのようにすれば自分の思いを表現できるのか、表現することに対して苦手意識をもつ児童も一部見られる。このように本学級の児童は、図画工作の学習に対して意欲的な児童が多く、表現の楽しさを味わっている児童が多い一方で、一部図画工作の学習に対して苦手意識をもつ児童もいる。

(2)　本題材を指導するに当たって

本題材は、児童が自分で模様を考え、つくり出して、表現していく題材である。本題材での模様とは、三角形や四角形、丸などの簡単な形や線を並べたり重ねたりすることでできるものとする。直線や曲線、形を組み合わせて、様々な模様をつくり出す面白さを味わうことをねらいとしている。児童が感じた面白い模様をつくり出し、自分の模様や友人がつくりだした模様をよく見ることでさらに表し方などを工夫して、今後の創作活動でより意欲的につくったり表したりしていくことができるようにする題材にしていきたい。

形や色などの感じが分かることの指導に当たっては、児童が簡単な形を並べたり、重ねたりすることで模様がつくれることを知り、どのような形でどのような模様がつくれるのか紙にかいて試しながら活動していく場を設定する。児童が簡単な形を並べたり、重ねたりしていく中で生まれた形の面白さを感じ取り、そこから自分なりの模様をつくっていく。その過程で児童が捉えている形や色などの感じを明確にしながら形のよさや面白さに気付けるようにしていく。活動中はどのような模様ができるのか試したり、友人がどのようなことをしているのか聞いたりしていく中で形をよく見て、新たな模様づくりを試していけるようにする。また、様々な模様をつくることで改めて形のよさや面白さに気付けるようにしていく。

表したいことに合わせて表し方を工夫して表す指導に当たっては、児童が表したいことを見付け、どのように表そうか考えながら多様な試みができるような場を設定する。具体的には様々な模様がつくれるように自由に使える正方形に切ったケント紙と方眼の入った更紙を用意する。ケント紙は大（２０ｃｍ四方）、中（１５ｃｍ四方）、小（１０ｃｍ四方）の３種類のものを用意する。児童がケント紙を使い、簡単な形からどのような模様ができそうか、形の大きさや並べ方を変えることで見え方がどう変わるかなど、様々なことを試したり、やり直したりすることができるようにする。児童が自分の表したいことに合わせて形を選んだり、模様をつくったりしていく中で気付いたことを学級全体に共有したり、グループで伝え合ったりしながら活動を進めていく。

形や色などの感じを基に自分のイメージをもつことの指導に当たっては、児童の活動の様子や、つぶやき、振り返りに着目し、児童がもっているイメージを捉え、児童が自分のもつイメージを意識できるように価値付けをしていく。模様をつくることで形のよさや面白さを感じながら活動

していく中で、使った形や線などから自分のイメージをもつことができるように声掛けを行っていく。

感じたこと、想像したことから、表したいことを見付けることや、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考える指導に当たっては、児童が表したいことへの思いを膨らませたり、技能についても考えたりできるように模様を試しながらつくる活動を設定する。活動中は、児童がつくりだした模様から感じたことや想像したことを聞き取り、児童の姿を価値付けていく。また、活動の終末には、児童が形や色の組合せから感じたことや考えたことを発表する場を設け、出された言葉を黒板に整理して共有する。本題材では、模様を試しながらつくる活動を重ねることで、児童が自分にとって面白いと感じる形に気付き、自分の思いをもって表現する楽しさを実感できるようにする。

自分や友人の作品のよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて感じ取ったり、考えたりして自分の見方や感じ方を広げることの指導に当たっては、自分の模様をよく見て、そのよさや面白さを感じ取る時間を大切にする。また、できた模様を一つの場所に集め、友人の作品を見合ったり、気になったことを聞き合ったりする場を設定する。友人の作品を見ることで、形の並べ方や重ね方、色の使い方などの表し方の工夫に気付き、作品のよさや面白さを感じ取ったり考えたりしながら、自分の見方や感じ方を広げていけるようにする。

3　題材の目標・評価規準

(1)　題材の目標（※〔共通事項〕ア、イはア＿＿＿、イ……で示す。）

○簡単な形を並べたり、重ねたりして模様をつくる感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かる。

○簡単な形を並べたり、重ねたりして模様をつくる活動を通して表現方法に応じて材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。　（知識及び技能）

○形や色などの感じを基に自分のイメージをもつ。

○簡単な形を並べたり、重ねたりして模様をつくる活動を通して感じたことや、見たことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながらどのように表すかについて考える。

○自分たちの作品を鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。　（思考力、判断力、表現力等）

○進んで表現したり、表現を鑑賞したりする活動に取り組み、つくり出す喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

（学びに向かう力、人間性等）

(2)　題材の評価規準

題材の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知簡単な形を並べたり、重ねたりして模様をつくる感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かっている。 技簡単な形を並べたり、重ねたりして模様をつくる活動を通して表現方法に応じて材料や用具を適切に扱うとともに、前学年まで	発形や色などの感じを基に自分のイメージをもちながら、簡単な形を並べたり、重ねたりして模様をつくる活動を通して感じたことや、見たことから表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながらどのように表すかについて考えている。 鑑形や色などの感じを基に自分のイメージをもちながら、自分たちの作品を鑑賞する活動を	態進んで表現したり、表現を鑑賞したりする活動に取り組み、つくり出す喜びを味わうとともに、形や色などに関

の材料や用具などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。	通して、自分たちの作品、製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	わり楽しく豊かな生活を創造しようとしている。

4　題材の指導計画・評価計画（4時間扱い）　　本時3／4時　◎…全児童記録

時間	学習活動	評価の観点、評価方法					備考
		知　技		思		態	
		知識	技能	発想や構想	鑑賞		
1	・題材の見通しをもつ。 ・模様のつくり方を知り、学校の中にある模様探しをする。			◎ 観察 対話 作品 記録	○		活動全体を通して、「知識及び技能」、「思考・判断・表現（発想や構想）」と関連づけて、「主体的に学習に取り組む態度」の視点で児童の学習状況を把握し、最後に記録に残す。
2 ・ ③	・自分の思いに合わせて、模様づくりをする。 ・自分でつくった模様を見たり、友人のつくった模様を見たりしながらさらに模様をつくる。	◎ 観察 対話 作品		○	○		
4	・つくり出した模様をどのように使ったり、表現したりすると面白いか考える。 ・自他の作品を見合い、よさや面白さに気付く。			○	◎ 観察 対話 作品 記録	◎ 観察 対話 作品	

5　本時の学習指導（3／4時）

(1)　目　標

○簡単な形を並べたり、重ねたりして模様をつくる活動を通して表現方法に応じて材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。　（知識及び技能）

(2)　準　備

○教師　　ケント紙、更紙、製図用定規、ボールペン

○児童　　カラーペン、定規

(3)　〔共通事項〕（小学校学習指導要領解説図画工作編より抜粋（下線部は、〔共通事項〕との関連））

ア　形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じなどが分かること。　（展開：＿＿＿部）

イ　形や色の感じを基に、自分のイメージをもつこと。　（展開：……部）

(4)　展　開

学習活動、予想される活動∞ 具体的な児童の姿「」	指導の工夫 （〔**共**〕：〔共通事項〕に係る内容）	評価規準 【評価方法等】	時間
提案　研究した成果をいかそう！			
1　前時の振り返りから本時の活動を確認する。 ∞前時までの活動で感じたことや気付いたことを共有	○前時にどのような模様ができたか、またその方法を複数の児童に聞き、本時でやってみたいことを全体に共有して、児童一人一人が自分のやり	知簡単な形を並べたり、重ねたりして模様をつくる感覚や	5

し、自分のやりたい活動をイメージする。 「前の時間では、模様をつくることができたよ」 「丸と四角を組合せるだけで模様になったよ」 2　自他の模様を見ながらさらに模様づくりをする。 ∞自分のつくった模様をよく見てどのように表すと面白いと感じる形か考え、製作する。 ∞児童同士で関わり合いながら活動する。 「三角形を並べるとかっこいい感じになるな」 「四角の中に四角を重ねると不思議な感じがするな。大きさも変えてみようかな」 「似た模様をつくっている子にどうやってつくったのか聞いてみよう」 3　本時の活動を振り返る。 ∞本時の学習から、気付いたことや感じたことを振り返る。 「同じ形だけでも大きさや重ね方を変えたらたくさん模様をつくれたよ」 「丸を使ったら優しい感じの模様になったよ」 「形の大きさを変えたら見た目の感じがかわったよ」 「つくった模様を何かに使えないかな」	たいことをイメージして活動をできるようにする。 ○児童から自分で型をつくり、かきたいといった児童の思いは認めていく。 ○形ごとの特徴を知り、実際に使いながら活動していくことで、児童がより模様を自分の思い通りに表現することができるようにする。 ○形や色の感じを基に、自分のイメージをもつようにする。〔**共**〕そのために、自分がつくった模様や友人のつくった模様をよく見ながら新たな模様をつくることで形から感じるイメージをもてるようにする。 ○児童が様々なことを感じながら、表したいことを見付けていくことができるように班の友人と模様を見せ合いながら感じたことを対話しながら活動できる場を設ける。 ○形や色などの感じが分かるようにする。〔**共**〕そのために、児童がつくった模様を一つの場所に集め、様々な模様の形を見ることで、どのような感じがしたのか声掛けを行う。 ○製作活動が停滞している児童については、個別に対話して、必要に応じて周りの児童の活動を見たり、模様のつくり方を繰り返し説明したりして活動の見通しをもたせる。 ○児童がつくった模様を友人と見せ合ったり、どのようにつくったのか説明し合ったりすることで、本時の振り返りをして、次時への期待感をもてるようにする。	行為を通して、形や色などの感じが分かっている。 【対話・観察・作品・記録】 技簡単な形を並べたり、重ねたりして模様をつくる活動を通して表現方法に応じて材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 【対話・観察・作品・記録】	37 3

6　備　考　　在籍児童数　　３５名

「わたしだけのもよう研究所」平面（4時間扱い）（第４学年）

児童が表したいことへの思いを膨らませたり、技能についても考えたりできるように模様を試しながらつくる活動を設定する。活動中は、児童がつくりだした模様から感じたことや想像したことを聞き取り、児童の姿を価値付けていく。また、活動の終末には、児童が形や色の組合せから感じたことや考えたことを発表する場を設け、出された言葉を黒板に整理して共有する。本題材では、模様を試しながらつくる活動を重ねることで、児童が自分にとって面白いと感じる形に気付き、自分の思いをもって表現する楽しさを実感できるようにする。

A表現（1）イ　発想や構想をする

●簡単な形を並べたり、重ねたりして模様をつくる活動を通して感じたことや、見たことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながらどのように表すかについて考えること。

児童が簡単な形を並べたり、重ねたりすることで模様がつくれることを知り、どのような形でどのような模様がつくれるのか紙にかいて試しながら活動していく場を設定する。児童が簡単な形を並べたり、重ねたりしていく中で生まれた形の面白さを感じ取り、そこから自分なりの模様をつくっていく。その過程で児童が捉えている形や色などの感じを明確にしながら形のよさや面白さに気付けるようにしていく。

〔共通事項〕（1）ア

●簡単な形を並べたり、重ねたりして模様をつくる感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かる。

児童の活動の様子や、つぶやき、振り返りに着目し、児童がもっているイメージを捉え、児童が自分のもつイメージを意識できるように価値付けをしていく。

〔共通事項〕（1）イ

●形や色などの感じを基に自分のイメージをもつこと。

児童がケント紙を使い、簡単な形からどのような模様ができそうか、形の大きさや並べ方を変えることで見え方がどう変わるかなど、様々なことを試したり、やり直したりすることができるようにする。児童が自分の表したいことに合わせて形を選んだり、模様をつくったりしていく中で気付いたことを学級全体に共有したり、グループで伝え合ったりしながら活動を進めていく。

A表現（2）イ　技能を働かせて表す

●簡単な形を並べたり、重ねたりして模様をつくる活動を通して表現方法に応じて材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。

自分の模様をよく見て、そのよさや面白さを感じ取る時間を大切にする。また、できた模様を一つの場所に集め、友人の作品を見合ったり、気になったことを聞き合ったりする場を設定する。友人の作品を見ることで、形の並べ方や重ね方、色の使い方などの表し方の工夫に気付き、作品のよさや面白さを感じ取ったり考えたりしながら、自分の見方や感じ方を広げていけるようにする。

B鑑賞（1）ア　鑑賞する

●自分たちの作品を鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。